

新生面

このところ熊本の北と南の端で大勢の人達が集まつて騒ぎを起こしている。北は大牟田の首切り反対争議、南は水俣病の大黒柱といわれる三池労組の組織立った争議はさすがだが、不知火海区漁民たちは統制者もないまま暴徒化して、新日窒水俣工場でたけり狂つた▼こんどは前回を上回る漁民を動員して、工場側をやつつける計画だ。そうだ。警察がつかんだ情報によるとダイナマイトで揚水ポンプなどをこわすたくらみがあるというが、これは絶対にやらせてはならない▼水俣病の波紋で、水俣市は恩者を出し、漁業禁止の動き自にあつた漁協以外に、不知火海区の漁師たちは變つても元れない、値をたたかれるという間接影響をうけているかも知れない。しかし工場に煙草を投げ込むことは、同情を寄せていた県民から見離されることだ▼動員をかけるには筋書きをたてねばならない。烏合の衆といわれた前回の騒ぎにも、かくられた指示者がいたに違いない。その指示者たちが“騒ぎどく”と考えたのである。うか▼工場側が団交を求める

られても数千人を相手にはできない。規律のある組織との交渉ならば話し合いで済む。規律のない組織との交渉は、話題が複雑で、漁民たちの怒りを直線的に煽る。工場に向ける愚かさを指示する者たちは考へてもらいたい。
▼水俣病騒動の力ギである原因究明は大詰めにきて、工場側のまづかつた点を明らかにした。このあとは事態收拾といふ第二段階に入る。▼患者の悲惨さ、漁民の窮状、工場側の苦悩は、すでに全国民の知るところである。このうえ漁民の暴力沙汰がとくになるとは誰も思わない。動員計画の統制者が居るならば、データと組織で平和交渉に切りかえるべきだ。▼熊本は晚秋から冬へ、すばらしい天気がつづく。『縁先の引きあげ舟や日向ほこ（風生）』の心境に漁民とともに早くなりたいものだ。